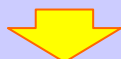


注目ポイント！

“木綿街道”を核とした新たな活動の展開。
自然環境を活かしたエコツーリズムの推進。



観光入込客数が約105万人から約116万人に増加！
(平成12年) (平成16年)



「木綿街道」の町並み

コラム

「木綿街道」は、地域に伝わる旧街道名ではない。歴史を物語る古い町並み・川並みを、昔ながらの手仕事や食文化にふれながらゆったりと散策できるようにしたいと、皆で考え出した名前である。この町並み保全と活用を行う、「木綿街道の会」は、イベントの他に歴史を学ぶシンポジウムや街道文化をテーマにした講演会など、地域での啓発活動にも力をいれている。



木綿街道の会会長
小村 俊美氏

これまでの経緯

- 平成元年(1989) 平田本陣記念館が開館する。
- 平成11年(1999) 「地域資源を活かしながら田舎暮らしを楽しむ」有志による取り組みが始まる。
- 平成13年(2001) イベント「木綿街道」が始まる。「木綿街道の会」が発足する。
- 平成15年(2003) 島根県立宍道湖自然館ゴビウスが開館する。宍道湖グリーンパーク、宍道湖自然館ゴビウス、宍道湖公園湖遊館(山陰最大のスケートリンク)、サンレイク艇庫(カヌー、ヨットの貸し出し)、多自然型湖岸堤等が一体の宍道湖ネイチャーランド開園。
- 平成16年(2004) 地元商店が「木綿街道商業振興会」を設立する。「思い出横丁ぶらり」と「割烹温泉ゆらり」がオープン。
- 平成17年(2005) 「木綿街道交流館」が開館する。「木綿街道ボランティアガイドの会」を設立する。



「木綿街道」の船川運河

当該地域は「わたしの旅100選」(平成17年)の特別賞として選定されたプランに含まれています。

主な取り組み

「木綿街道」を核とした観光地域づくりの推進

かつて江戸から明治にかけて雲州木綿の集散地として栄えた平田。船川運河周辺には、江戸時代から続く伝統的和菓子「生姜糖」や酒蔵・醤油の製造販売店など昔ながらの商屋の町並みが残る。

「地域資源を活かし田舎暮らしを楽しもう」と活動する有志が古い町並みを多くの人に知ってもらおうとイベント、「おちらっと 木綿街道」を実施。このイベント

の成功を皮切りに「木綿街道の会」が発足。通りを歩行者天国にして、昔ながらの手仕事や食文化に触れながら散策してもらう手づくりイベント「木綿街道」を中心に、町並み保存や「一式飾り」などの文化継承への取り組みを行う。平成16年には、天然掛け流し温泉「割烹温泉ゆらり」と併設して特産品を売る「思い出横丁ぶらり」がオープン。「ゆらり」では、温泉で神楽を見る試みを行う。同年「木綿街道商業振興会」が設立し、工夫を凝らした新たな取り組みを展開。平成17年にオープンした木綿街道交流館を拠点にしたボランティアガイドの設立など、「木綿街道」を核とした観光地域づくりを推進。



イベント「木綿街道」



平成17年競技会 表彰作品

一式飾り～伝統芸能の保全と活用～

日常生活用品で歌舞伎や動物などの見立て細工を作る、一式飾り。この平田独特の民俗芸能は、地域の有志により伝統継承の取り組みが図られ、本木佐家の旧宅(本陣宿)を移築した平田本陣記念館などで、観光資源として活用されている。

自然環境を活かした観光地域づくり

斐伊川河口一帯は、マガン、コハクチョウの集団越冬地であり、野鳥の宝庫である。

自然環境の保全を進めるホシザキグリーン財団は、当地に国が整備する多自然型護岸と一体となった自然体験型観光施設「宍道湖グリーンパーク」を整備。

平成15年からは、汽水をメインテーマにした体験学習型水族館等と一体となったネイチャーランドとして、カヌー体験、探鳥会、水生生物調査など、多様なエコツーリズムが図られている。



多自然型護岸での水生生物調査



探鳥会

問い合わせ先

出雲市役所平田支所
平田商工会議所
木綿街道交流館

Tel : 0853 - 63 - 5550
Tel : 0853 - 63 - 3211
Tel : 0853 - 62 - 2631

<http://www.e-hirata.com/>
<http://www.hirata-cci.or.jp/>